

東京医科歯科大学との共同研究をテーマにした シンポジウムに当社社長・熊谷敬が登壇されました



2022年10月にALSOK×TMDU(東京医科歯科大学)×NJI(バイタル測定機器メーカー)の3社による包括連携協定を結び、共同研究を進めておりました。

12月3日(土)第42回日本看護科学学会にて、ケア現場のDX推進を目指した工学技術とケア情報融合の産学連携の取り組みに関するシンポジウムが開催され、熊谷社長が登壇されました。

研究概要：

終末期高齢者の「日々の状態変化」のデータを測定し、これらと「緊急イベント」※との関連性をAI解析することにより、「看取り予知技術」と「トータルケアパッケージ」の標準化・ガイドラインを開発

※「緊急イベント」...病気の悪化、緊急入院等の状態変化のこと



研究手法：

施設入居高齢者の

- ①身体・心理・社会面の「状態データ」
- ②状態変化と問題発生という「評価データ」
- ③ケア記録からの医療介護職の観察・判断を含む「介入データ」

これら3種のデータをを連続的に集積し、AI分析から「看取り予知IoT」を開発していく

■ミーティングの様子

TMDU,本社担当者と現場との密な連携により、緊急受診・ADL悪化の要因を示す等実践に生かしやすいように分析結果を共有し、丁寧なコミュニケーション、次の研究につながる調査現場のモチベーションアップを図っていく



当社の発案による
新規ソフトウェアプロジェクト
（「入居者の介護度適正化」）
も、9月からスタート！

成果：

看取り支援IoTを開発する。事前に「死亡、緊急受診・入院、状態悪化」を予測することにより先回りのケアが可能となることで高齢者・家族・ケアスタッフの3者共に負担が軽減される

経験と勘から「科学的根拠」に基づくアプローチへ

